

IDSデザインコンペ一般公開

県内中心に43^社・^{団体}の54点一堂に 新しい時代、人の心癒す提案

IDS大賞の 異物検査機 食の安全安心に提案

新潟県とにいがた産業創造機構(理事長・泉田裕彦、副理事長・NIC)は二十三日午前十時から県央地域産業振興センター多目的ホールで前日二十日に審査を終えたニイガタIDS・イデスデザインコンペティション2009の表彰式を行い、特別賞を含め、入賞の十四社・団体に賞状や記念賞、賞金を贈呈して、新潟から日本、そして世界に向け「生活を楽しむ商品」「生活を助ける商品」として発信していく各種提案、取り組みをたたえた。

表彰式で講評を述べる豊口審査委員長



IDS大賞を受けるシステムスクエア・デザイン部の斉藤寿満主任



この日から二十五日まで三日間、同ホールで県内を中心に四十三社・団体から出品された五十四点・システムの全作品を一般公開しており、新潟らしさを盛り込んだ企画、デザイン力などを存分に感じさせる作品群が来場者の注目を集めている。

表彰式には関係者三十人ほどが出席。開会で県産業労働観光部・早稲弘副部長は「入賞の資料を見て、会場に入るのを楽しみしていた。経済状況は昨年十一月以降、つるべ落としのように悪化している中、五十四点もの出品があったことを喜んでいる。消費者ニーズに合わせた象徴的商品が並んでおり、新潟県の商品力の発信に向けて、これからも頑張りたい」。

にいがた産業創造機構・牧野正博副理事長は「県内企業のモノづくりに対する真しな姿勢を感じた。このコンペも十九回目となり、これをきっかけに多くの企業がさまざまな分野で活躍されている。技術、感性、時代への提案性から大きく評価されたものばかりで、多くの人に見てもらい、日々の生活の充実につなげてほしい」と、そろって今後の活躍に期待を込めた。

続いて審査結果の発表と併せ、豊口審査委員長がコンペを振り返り「コンペ全体を通して、新しい時代の人と人とのコミュニケーションを求めている」としている姿勢を感じた。本賞に必要な道具、人の心を癒すような提案がたくさんあった。こうした満ちた成果を世界に向けて発信していくてほしい」と、年々レベルが向上していくコンペを絶賛した。

最高賞のIDS大賞を受賞した異物検査機は、食品に混入した異物の検査では金属検出器が一般的なか、石や骨、ガラスなどの異物も検知できるX線活用の検査機。従来の検査機に比べて安価でコンパクト、さらには操作性にも優れ、一般人でも使いやすいなど、国民的な関心の高まりがある食の安心・安全に対応した提案。

受賞の縞システムスクエア(山田清貴社長、長岡市)からはデザインを担当した同社デザイン部の斉藤寿満主任(三ヶが表彰式に出席した。同社は平成元年創業で、従業員七十数人の平均年齢が三十六歳と若々しい企業。同コンペには初出品でのいきなりの大賞受賞で、斉藤主任は「昨夜、発表を聞いたときは信じられませんでした。一夜明けて実感がわいてきました」と、喜びを語った。

